

生徒支援部通信

田名部高校定時制

第 2 号 令和 8 年 7 月

令和 8 年度 3 ヶ月間の学校生活を振り返って

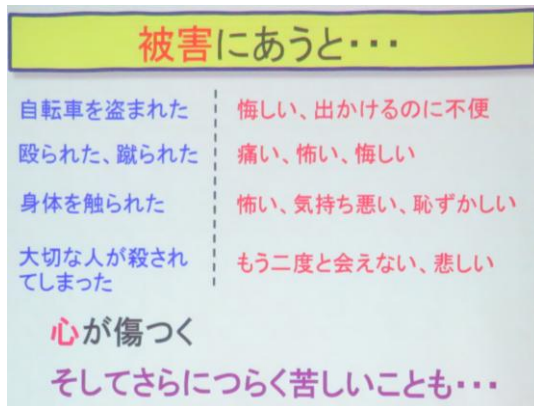
令和 8 年度も新しい 1 年がはじまり 3 ヶ月が経ちました。4 月から新鮮な気持ちで学校生活をスタートし、授業や各種行事、部活動等に取り組んできました。この 3 ヶ月間の様々な活動を振り返り、二学期からの学校生活も充実させていきましょう。

○ 情報モラル教室 「命の大切さを学ぶ教室」

4 月 24 日（金）には、青森県警察本部 警務部 警務課 犯罪被害者支援室 富岡 拓身 様（公認心理師・臨床心理士）に、犯罪で大切な家族を奪われた御遺族の実情について御講演いただきました。講演会では、安易な情報発信や噂話等が遺族の方々に様々な「痛み」をもたらすこと。命の大切さや加害者も被害者も出さない社会を希求すること。社会全体で被害者を支えることの大切さを学ぶことができました。



（講師 富岡 拓身様）



（講演会でのスライド）



（被害者に寄り添う学習場面の様子）

○ 県定通総体 壮行式、県定通総体 陸上競技大会

選択制で実施している部活動。運動部では陸上競技部に希望者が入部し、県定通総体や全国大会への出場を目標に活動しました。5 月 15 日に行った壮行式では、4 年次の島野裕司さんが「部活動で取り組んできた成果を発揮し、全国大会出場権獲得を目指して頑張ること」を堂々と発表しました。5 月 22 日に行われた県定通総体では、400m を力走して 3 位入賞を果たし、全国大会出場権を獲得しました。全国大会出場は 4 年連続の快挙です。



（壮行式 決意表明）



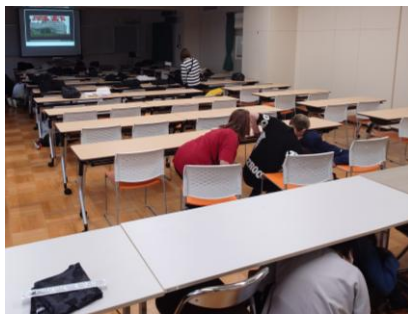
（表彰式の様子）



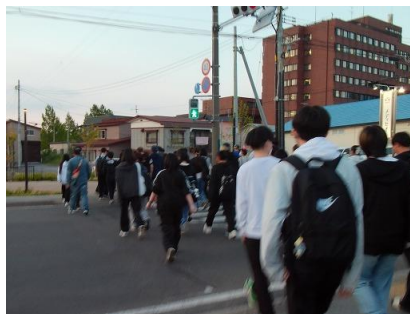
（400m 走の様子）

○ 第 1 回 避難 訓練

6月12日には、生徒及び保護者等と教職員による夜間の高台への避難訓練を実施しました。緊急地震速報の受信を想定し、素早く身の安全を守る行動を取ってから、校舎外に一次避難を行いました。その後、津波警報発令を想定して、高台へ向かって三次避難を行いました。



(緊急地震速報対応訓練の様子)



(高台への避難訓練の様子)



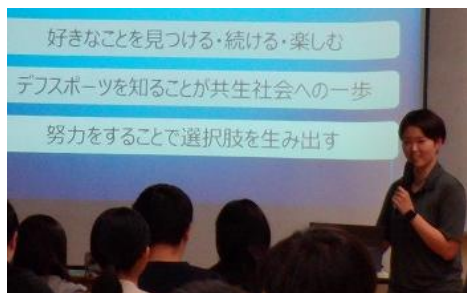
(高台から学校へ帰還した様子)

◎ 第1回避難訓練に参加いただいた保護者の方からの感想を紹介いたします。

昨年から今年にかけ、むつ市内で津波注意報が発表されることが何度かあり、子供たちが緊急地震速報や津波避難のサイレンをととても怖がるようになりました。地震や津波が怖いのは、どうなるのか、どうしたらよいのか、分からなくて不安になるからだと思います。今回避難訓練に参加し、学校にいるときに災害が起きたらどうしたら良いのかが分かり安心しました。生徒たちは真剣な面持ちで避難行動に取り組み、先生方は段取り良く連携して訓練を指揮し、皆さんすごいなと思いました。日頃の運動不足で生徒たちの歩く速度についていくのは大変でしたが、避難経路を共に歩いて確認することができ、有意義な時間を過ごせました。我が家でも、避難場所や避難経路、非常用持出袋を改めて確認しようと思います。

○ スポーツ庁委託事業 令和8年度アスリートの派遣等による体育授業等の充実事業

7月6日には、デフ卓球の木村 亜美さんを講師にお招きし、講演会と体育の授業を行いました。講演会では、好きなことを見つけて努力することで将来の選択肢を増やすこと。デフスポーツを知ることが共生社会の実現に繋がることを学びました。体育の授業では、亜美さんとの交流を通して、喜びの感情を仲間と共有しながら卓球を楽しむことができました。



(講師の 木村 亜美 さん)



(練習の仕方を説明する亜美さん)



(デフリンピックの手話ポーズで集合写真)

◎ 講演会及び体育の授業を参観いただいた保護者の方からの感想を紹介いたします。

デフ卓球メダリストの木村亜美さんの講演を聞いて、お話が上手で流暢に喋られるなあと思い、私はろうあ者の方が喋るのが苦手だと思い込んでいたことに気づきました。パラとデフの違いを知り、障害によって必要な支援が異なることを知りました。無知は偏見を生むと身をもって知り、デフスポーツを知ることが共生社会への一歩という意味が分かりました。障害を自己努力で解決しようとしても個人モデルでは限界があり、環境や制度の改善など社会モデルも変わる必要があると分かり、不登校問題も同じだと思いました。授業参観で、亜美さんと生徒たちがのびのびと声を掛け合って卓球をしている様子を見て、微笑ましくなりました。亜美さんのように好きなことを続けられるのはすごいことだと思います。私もチャレンジする気持ちを持ち続けたいと思いました。